

# 平成 27 年度福井県計画に関する 事後評価

令和 7 年 1 月  
福井県

### 3. 事業の実施状況

平成27年度福井県計画に規定した事業について、令和5年度計画終了時における事業の実施状況を記載。

事業の区分	1. 病床の機能分化・連携に関する事業	
事業名	【NO. 1】 地域包括ケア病院整備事業	【総事業費】 5,222,653千円
事業の対象となる区域	福井・坂井医療圏、丹南医療圏、嶺南医療圏	
事業の実施主体	木村病院、泉ヶ丘病院、安土整形外科医院、上中病院、国立敦賀医療センター、林病院、福井赤十字病院、福井総合病院等	
事業の期間	平成27年4月～令和6年3月 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	<p>地域に急性期を脱した患者を受け入れる病床が少ない状況にあるため、急性期病床など地域で過剰な病床機能を回復期病床へ転換していくことが必要</p> <p>アウトカム指標:2025年までの必要整備量(病床機能報告による現状と地域医療構想における病床の必要量との比較)に対する回復期病床整備量の割合 209床/1,614床(2,646床-1,032床) 一般・療養病床の削減 ▲70床/▲2,332床(9,923床-7,591床)</p>	
事業の内容(当初計画)	急性期医療を経過した回復期の患者について、リハビリや在宅医療等を身近な医療機関で受けられるよう、急性期病院からの患者受入れのための病棟やリハビリに必要な施設等を整備する。また、救急医療機関に対する設備整備や急変した在宅療養者の受入れに必要な施設・設備整備を支援する。	
アウトプット指標(当初の目標値)	病床の削減に取り組む医療関数:R5 3機関	
アウトプット指標(達成値)	病床の削減に取り組む医療関数:R5 3機関	
事業の有効性・効率性	<p>観察できた(病床機能報告 2023.7.1時点病床数) 一般・療養病床が前年度に比べ▲152床(8,782→8,630)削減された。 回復期病床が前年度に比べ43床(1,847→1,890)増加した。</p>	

	<p><b>(1) 事業の有効性</b>  中核的な病院等から回復期の患者を受け入れるための病棟整備や在宅療養患者の急変時の受入れ体制の整備が一定程度進んだ。</p> <p><b>(2) 事業の効率性</b>  病院・診療所の再編等に併せ、効率よく回復期病棟等の整備を進めることができた。</p>
<p>その他</p>	<p>(年度別基金活用実績)</p> <p>H27 : 60,882 千円                      R4 : 84,432 千円  H28 : 8,059 千円                        R5 : 308,745 千円  H29 : 255,309 千円  H30 : 254,600 千円  R1 : 13,400 千円</p>